

公益社団法人日本薬剤学会 2023 年度事業報告

(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発、研究の振興、調査研究並びに評価により、薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

まえがき

今年度は公益社団法人としての責務を遂行するに当たり、上掲の「公益目的事業 1」を着実に推進するための事業計画を立案し、理事会を中心としたガバナンス体制の下、着実に事業の運用を図った。また、健全な財務基盤の確保も円滑な事業運営の課題であるが、事業ごとに精査を行い、こちらも適正運用の達成に努めた。

会長 (尾関会長)

- 1 APSTJ 2025 推進事業
 - 理事会主導により、日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討を行った。
 - 2023 年度に発足された「日本薬系学会連合」に加入し、国内外の関連学協会との交流を推進した。
- 2 国際標準医薬分業推進事業
 - 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について、必要な情報を整理しつつ、実施に向けての戦略を立案し、関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進した。

副会長総務担当理事 (楠原副会長)

- 1 学会賞等表彰事業

1.1 薬師メダル	受賞者なし
1.2 学会賞	受賞者 竹内洋文
1.3 功績賞	受賞者 岡田弘晃
1.4 奨励賞	受賞者 安藤英紀 吉門 崇
1.5 タケル&アヤ・ヒグチ記念荣誉講演賞	受賞者 ---当期設定なし---
1.6 タケル&アヤ・ヒグチ記念賞	受賞者 石田竜弘
1.7 永井記念国際女性科学者賞	受賞者 小川法子
1.8 創剤特別賞	受賞者 なし
1.9 優秀論文賞	受賞者 Hiromasa Uchiyama, Taiga Ando, Kazunori Kadota, Yuichi Tozuka
1.10 製剤の達人称号	受賞者 土肥優史, 平山壽和, 井上和博
1.11 国際フェロー称号	受賞者 受賞なし
- 2 創剤開発・研究賞表彰事業

2.1 旭化成創剤開発技術賞	受賞者 山田勇磨
2.2 旭化成創剤研究奨励賞	受賞者 なし

渉外担当理事 (小暮理事)

- 1 学生主催シンポジウム事業

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と、口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として、38 年会において学生主催シンポジウム「SNPEE2023*」（「“Expanding imagination, fly balloons. ～将来に向けたアプローチ～”」）を開催した。

2023 年 5 月 16 日 参加者 約 60 名
- 2 広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営等を通して本学会の活動の広報を行うとともに、会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図る。また、毎月ニュースメールを配信し、イベント情報や最新情報を会員に届けた。

ホームページにおけるバナー広告の運営方法を検討し、収益を上げられるように契約の見直しを行った。求人広告の掲載についても検討し、有料での掲載を行うこととした。また、「薬剤学」誌の編集委員会および他の学会内組織と連携し、ウェブサイトからの情報発信を活性化した。

3 医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し、専門の研究者・技術者が協議し、本学会会員に情報発信を行うことを目的に、38 年會において医薬品包装シンポジウム「コロナ禍で見えてきた医薬品調剤業務の変化と新しい医薬品包装の在り方」を開催した。

2023 年 5 月 18 日 参加者 約 100 名

4 教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について、専門委員が協議して提言を行うほか、教育資料の企画、年會における「薬学教育シンポジウム」（薬学教育モデルコアカリキュラム G「薬学研究」における薬剤学基礎研究への取り組み ～メンターとして研究の本質をどう伝えるか～）を開催した。

2023 年 5 月 17 日 参加者 約 100 名

国際連携担当理事（西川理事）

1 英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため、訪日した海外研究者・国内の研究者または英語教育専門家等を講師として招聘し、講演・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar をオンラインで開催した。

1.1 第 1 回英語セミナー 2023 年 10 月 20 日 参加者 約 105 名

1.2 第 2 回英語セミナー 2024 年 3 月 4 日 参加者 約 63 名

2 国際学会等協力事業

- FIP（国際薬学連合）

FIP の Predominantly Scientific Member Organization として、Council Meeting で重要事項を審議する他、Section/SIG にメンバーを派遣する等、BPS の諸活動に積極的に参画した。また、FIP Education や次回 PSWC の會議に参画し、会員の参加を奨励した。

- AFPS（アジア薬科学連合）

2023 年 11 月 8 日 - 10 日 Hanoi, Viet Nam において Conference AFPS2023 が開催された。Conference AFPS2023 において、会長および国際連携理事が講演した。

- 第 5 回日韓合同薬剤学若手研究会

第 5 回日韓合同薬剤学若手研究会（2025 年 6 月韓国開催予定）に向けた対応を協議した。

- カンサス大学表敬訪問

今回、タケル&アヤ・ヒグチ記念賞の講演者及び会長のカンサス大学への派遣は見送った。

機関誌担当理事（武田理事）

1 「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と薬学を学んでいる若い学生を対象にした「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を実施した。原著論文については J-STAGE での Web 公開と同時に、他の記事は Web 公開の半年後から全情報を公開し、「薬剤学」の引用率向上に努めてきた。

2 投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文の審査と、優秀論文賞の選考を行った。

3 学会誌出版事業

3.1 機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行した。

Vol. 83 No. 2 2023 年 4 月 1 日発行

Vol. 83 No. 3 2023 年 7 月 1 日発行

Vol. 83 No. 4 2023 年 10 月 1 日発行

Vol. 84 No. 1 2024 年 1 月 1 日発行

英文論文についても積極的な投稿促進を図った。

3.2 公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

昨年度に引き続き JDDST への投稿や購読促進を図った。2023 年度は Vol. 82 (2023 年 4 月) ~ Vol. 93 (2023 年 3 月) の計 12 巻をオンライン発行した。

技術・書籍担当理事（米持理事）

1 製剤技術伝承講習会事業

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により、滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため、座学・実習の講習会の企画運営を行い、講習会を開催した。また、講

習会の講師より製剤の達人称号の選考も行った。

- 1.1 第 32 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会
2023 年 8 月 24 日-25 日 (第 1 部) 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス 参加者 12 名
2023 年 9 月 28 日-29 日 (第 2 部) 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス 参加者 11 名
2023 年 10 月 12 日-13 日 (第 3 部) 大阪大谷大学ハルカスキャンパス 参加者 8 名
- 1.2 第 23 回製剤技術伝承実習講習会
「製剤設計の基盤となる多様性広がる化合物の評価戦略Ⅲ」
2023 年 8 月 31 日-9 月 1 日 星薬科大学 参加者 28 名
- 1.3 第 24 回製剤技術伝承実習講習会
「連続生産システムと PAT、レギュレーション」
2023 年 11 月 7 日-8 日 (株) パウレック 参加者 15 名

2 製剤技師認定事業

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究・開発・製造担当で、日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規・制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定を行った。今年度も本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図るため、様々な活動を展開した。今期の開催と認定者は以下のとおり。

- 2.1 第 14 回製剤技師認定試験 受験者 17 名
2023 年 10 月 14 日 東京会場：味覚糖 UHA 館 TKP 浜松町カンファレンスセンター
大阪会場：TKP 新大阪駅前カンファレンスセンター

3 出版委員会事業

本学会の事業に関連する書籍等の企画編集を行った。

- 3.1 昨年度に引き続き、薬剤学会フォーカスグループ (FG) の活動に伴う各グループの代表的テーマを総論的にまとめた書籍の企画出版を計画した。
- 3.2 Pharm Tech Japan, じほうにて「DDS 製剤をはじめとする機能性製剤から学ぶ」, 「新規治療を可能にした医療製品」を連載した。
- 3.3 その他、製剤技術伝承講習会の講演内容や薬剤学に関連した書籍等の出版について検討した。

製剤・創剤セミナー担当理事 (岡本理事)

1 製剤・創剤セミナー事業

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い、医療・薬剤学に関し、サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」を以下の通り開催した。

- 1.1 第 48 回製剤・創剤セミナー 参加者 116 名 (事前登録並びに当日参加の有料参加者数)
テーマ『デジタル新時代の医療と創剤』
2023 年 9 月 14 日-15 日 湘南国際村センター

公開市民講演会事業担当理事 (崔理事)

1 公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画し、今期は以下の通りオンデマンド配信した。

- 2023 年 9 月 25 日 世界薬剤師の日
2023 年 9 月 25 日-2024 年 3 月 31 日 (オンデマンド配信) アクセス数 387 件

FG 担当理事 (石田理事)

1 FG 統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ (FG) を統括する委員会として、各 FG の執行部・事業・予算の管理を行い、各 FG に対する助言や FG・理事会間のリエゾンを担当した。事業・予算の管理のための FG 統括委員会はメール会議で対応した。

以下、各 FG の活動報告概要を示す。

- 【経口吸収 FG】
 - ・ 39 年会に Physiologically-based Biopharmaceutics Modeling に関するラウンドテーブルセッションを提案。結果は不採択。
- 【経皮投与製剤 FG】
 - 経皮投与製剤に関わる最新の知見や技術情報を共有するとともに、経皮投与製剤の研究に

従事する研究者同士が議論する場を提供する取り組みとして、第13回経皮投与製剤FGシンポジウム（後援：城西国際大学）を開催した（2024年2月14日）。本年度は、「経皮投与製剤のオーバービュー」、「角質層およびタイトジャンクションに関する話題」、「イオン液体やマイクロニードルに関する話題」に関して、5名の先生方に講演いただき、参加者は101名であった。

【経肺経鼻投与製剤FG】

・経肺経鼻投与製剤FG研究会を対面・Webのハイブリッド形式で開催した（2024年2月16日、静岡県立大学草薙キャンパス及びZoom）。本年度は、吸入粉末剤の新規調製法その他、点鼻剤、点鼻デバイスに関する発表、また海外研究者にも講演いただき、意見交換を行った。対面、オンラインともに約50名、合計で100名を超える参加者があった。

【核酸・遺伝子医薬FG】

本FGでは、核酸医薬・遺伝子医薬の設計、合成、分析、体内動態（ADME）、安定化や標的指向化のための化学的・製剤学的工夫、臨床・非臨床試験、レギュラトリーサイエンスなどを議論することを目的として、以下の活動を行った。

・日本薬剤学会第38年会にてラウンドテーブル「アクティブターゲティング技術の現状、課題、将来展望について考える」をDDS製剤臨床応用FGとの共催で開催した（2023年5月）。

・日本薬学会第144年会にて一般シンポジウム「中分子医薬および超分子DDSの開発・評価とレギュレーションについて考える」を超分子薬剤学FGとの共催で開催した（2024年3月）。

【薬物相互作用・個別化医療FG】

本FGでは、薬物動態及び薬効・副作用の個体間変動を創薬や臨床においてどのように捉え、対処すべきかについて議論する目的で、以下の活動を行った。

・第33回日本医療薬学会年会 シンポジウム「薬物動態の“モデリング&シミュレーション”の活用 ―現状と未来―」（2023年11月3日、仙台）を本FGとの共催で開催した。

・日本薬学会第144年会 シンポジウム「個別化医療に寄与する薬剤学―基礎および臨床/開発の観点から」（2024年3月31日、横浜）を本FGとの共催で開催した。

【医療ZDと完全分業FG】

薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し、そのリスク管理の医療におけるZD（Zero Defect）が達成されるよう 医薬分業の理念（医薬業の完全分離、処方鑑査の徹底、薬剤師Ethicsを高揚し薬剤師の質的向上）を基盤としたシステム・教育の構築を目指す討論を今年度もE-mail討論により進めた。

【DDS製剤臨床応用FG】

研究者間のコミュニケーションの活性化、研究成果の結実に向けた課題解決の討議を目的として、以下を実施した。いずれも盛況であり、活発な討議がなされた。特に、新型コロナウイルスパンデミックの沈静化後、合宿討論会を再開できたのは喜ばしいことであった。

・日本薬剤学会第38年会ラウンドテーブルセッション「アクティブターゲティング技術の現状、課題、将来展望について考える」（2023年5月17日（名古屋））

・第10回DDS製剤臨床応用フォーカスグループ合宿討論会（2023年11月17日、18日（帝京大学箱根セミナーハウス））

・日本薬学会第144年会 一般シンポジウム「基礎レベルにあるDDS技術のシーズを開発ステージに進めるために求められること」（2024年3月31日（横浜））

【物性FG】

物性フォーカスグループセミナー2023「X線を用いた原薬・製剤の評価」（2024年2月20日、参加者136名）をタワーホール船堀 小ホールにて開催した。セミナー終了後のアンケート結果は物性FG専用のHP（URL: <http://bussei-FG.com/>）を通じて公開した。

・日本薬剤学会第38年会にてラウンドテーブル「創製・物性の面からイオン液体を考える」を開催した（2023年5月）。

- **【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】**

QbD を普及させるための活動として、以下の内容を実施した。

- ・当 FG の活動を進めるにあたり、執行委員会を 8 回開催した。
- ・前回実施した QbD の普及状況を把握するためのアンケートから 5 年が経過した。QbD の現状を把握するために、2023 年 9 月 4 日～11 月 10 日に QbD に関する Web アンケートを実施した。53 名から回答が得られた。機関誌薬剤学にて、アンケートの結果を報告する予定であり、現在、その原稿を作成中である。
- ・2024 年 3 月 4 日に、星薬科大学にて第 3 回 QbD 実習講習会を開催した。23 名の参加者があった。QTPP の設定から始まり、リスク評価の結果を踏まえて管理戦略を構築する QbD の基本的な流れを実習した。

- **【臨床製剤 FG】**

調剤・製剤技術は薬剤師の根源的な職能であり、その伝承のためには、エッセンシャルな院内製剤の選定、その製剤手順書の標準化、および必要な製剤技術の習得が重要である。2023 年度は、日本医療薬学会 2023 年度医療薬学学術小委員会と共同して臨床製剤の普及、医薬品開発ニーズの探索などを行うこととした。また、日本薬学会第 144 年会において、日本薬剤学会、日本医療薬学会、日本薬学会 3 学会合同シンポジウムを開催し、それぞれの学会の立場から臨床製剤の普及に関して議論を行った（参加者約 100 名）。本内容は薬事日報の記事として掲載された（2024 年 4 月 5 日発刊）。2023 年度はコロナ禍のためメール会議による討論が中心となった。

【ビジネスエコ創剤 FG】

本 FG は、AI, DX, DTx, ダイバーシティ, SDGs など多様なテーマに関して、持続可能な医療と医薬品の未来を描き、サイエンスとビジネスエコシステムの両視点で広範囲な分野の意見を交流させ、多角的な観点から 近未来の医薬品や医療への貢献につなげることを目的に活動してきた。2023 年度は、オンラインシンポジウム：「未来医療と医薬エコシステム」を開催した（2024 年 2 月 16 日、参加者約 30 名）。

【超分子薬剤学 FG】

複数の分子が共有結合以外の結合により秩序だって集合した分子である超分子に注目して、「超分子化学」と「薬剤学」を融合した新規学問である「超分子薬剤学」を立ち上げ、次世代の薬剤学を創製することを目的として次のような活動を行った。

- ・日本薬学会第 144 年会にて一般シンポジウム S09「中分子医薬および超分子 DDS の開発・評価とレギュレーションについて考える」を核酸・遺伝子医薬 FG との共同でオーガナイズし、対面で開催した。（2024 年 3 月 29 日）：参加者約 350 名
- ・日本薬学会第 144 年会にて一般シンポジウム S66「AI で切り拓く未来の創薬・医療」をオーガナイズし、対面で開催した。（2023 年 3 月 31 日）：参加者約 150 名

【小児製剤 FG】

- ・AMED 研究（令和 4～6 年度）において、「国際連携体制の構築」を継続検討。
- ・チャイルド・ライフ・スペシャリストの協力により、闘病経験のある小児との小児製剤に関する座談会（2023 年 5 月 31 日、2023 年 10 月 11 日）
- ・Big Data の利活用に関する検討会（2023 年 7 月 31 日、2023 年 8 月 17 日）
- ・自治医科大学、小坂仁先生をはじめ産官学より 8 名の演者を招聘し、「第 4 回小児製剤研究会」を AMED と共催。（2024 年 2 月 9 日、対面／オンラインハイブリッド開催、参加者 100 名）

【デジタル製剤学 FG】

各種デジタル技術と製剤学分野の融合領域の最新知見を集約・共有し、本領域の発展ならびに製剤開発の効率化・高質化に資するため、下記の取り組みを行った。

- ・デジタル製剤学 FG 第 1 回シンポジウムを開催し、アカデミア 2 名、製薬企業 4 名の先生による講演と参加者間での意見交換を行った（2023 年 12 月）。シンポジウム、意見交換会の参加者はそれぞれ、88 名、63 名であった。
- ・「薬剤学」に掲載された上記シンポジウムのレポート（薬剤学, 2024, 84(2), 114-115.）を通じ

て、シンポジウムの内容を本学会員にフィードバックし、当 FG の取り組みならびにデジタル製剤学分野の最新情報を周知した。

・本 FG 執行部メンバーの 1 人による日本薬学会誌「ファルマシア」内の特集（最前線）記事（ファルマシア, 2024, 60(2), 116-121.）にて、本 FG についても言及の上、日本薬学会の本 FG の HP アドレス（<https://www.apstj.jp/focus-groups/digital/>）についても掲載した。

2 製剤設計における種差の問題検討会（略称：製剤種差検討会）事業

2016 年度に発足した製剤種差検討会は、入会した会員（団体）が製剤設計における種差の問題に関する経験事例の報告を行い、種差が影響する要因について皆で討論し整理することを目的としている。具体的には年に数回、東京地区と京都地区で交互に対面による事例報告会を開催してきたが、コロナ禍の影響により、2020 年 1 月の事例報告会以後は休止状態となっている。2024 年度は 2 回事例報告会を再開したい。また、大きな財産となりつつある質問箱（現在 140 件の質問）& コメント・回答集の充実を図る。更に、団体会員数（2022 年 12 月現在 57 団体）の増加を図るとともに、本検討会の展開方法ならびに事例報告会の運営方法について世話人会を中心に議論を進める。

制度改革担当理事（山下理事）

1 制度改革担当事業（制度改革委員会）

- 現行制度を絶えず検証し、公益社団法人として、持続性のある制度として整備した。

1.2 公益社団法人として主体的で統制された本学会の運営体制を構築し、理事会が学会事務局と業務委託先（学会支援機構、公認会計士）を統括管理できる体制とした。また、規程等と事業との整合性を確認し、必要に応じて見直しを提案し、理事会における本事業の検証を推進した。

具体的には、(1) 会員管理システムを刷新し、会員の委員会活動などを一元的に管理するシステム構築、(2) 職員規程の見直しなど規程の見直しを検討した。

年会長（岡本第 38 年会長）

1 年会事業

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行った。会員の口頭またはポスターによる研究発表の他、下記の各種講演・シンポジウム、ラウンドテーブルセッション、ランチョンセミナー、企業展示会等の多様なプログラムを設けたほか、若手の連携を意図した交流会を行った。

1.1 第 38 年会の開催

メインテーマ「つ-な-が-る-薬剤学 ポストコロナ医療への展開」

開催日：2023 年 5 月 16 日-18 日

場所：愛知県産業労働センター（ウインクあいち）

特別講演：2 演題、招待講演：1 演題

各種受賞者講演

学術シンポジウム：6 件

特別企画シンポジウム：2 件、薬学教育シンポジウム、医薬品包装シンポジウム、SNPEE2023 各 1 件

ラウンドテーブルセッション：6 件

ランチョンセミナー：9 件

企業展示：44 社

一般講演：口頭発表：140 演題、ポスター発表：141 演題

参加者数：964 名 2023 年 5 月 16 日-18 日

1.2 第 38 会組織委員会の開催：2022 年 6 月 8 日、11 月 1 日、2023 年 3 月 27 日

学会運営（会長、事務局）

1 理事会

学会の業務執行の決定、理事の職務執行の監督等を行う機関であり、法人のガバナンスを担う中心的な機能を果たすべく、以下のとおり理事会を開催した。

第 1 回理事会 2023 年 4 月 24 日

第 2 回理事会 2023 年 5 月 15 日

第 3 回理事会 2023 年 10 月 6 日

第 4 回理事会 2024 年 1 月 24 日

2 代議員総会（定時総会）

正会員から選挙で選ばれた代議員で構成される学会の最高の決議機関である総会を以下のとおり開催した。

2.1 定時総会 2023年5月16日 場所：愛知県産業労働センター（ウイंकあいち）
出席者数：117名（委任状71名を含む）

なお、2023年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以 上

(参考)事業別収支(損益ベース)一覧

2023年4月1日から2024年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

事業名	経常収益計	経常費用計	当期経常増減額	備考
公益目的事業				
APSTJ2025推進事業	0	0	0	
国際標準医薬分業事業	0	0	0	
学会賞等表彰事業	300,000	1,466,361	△ 1,166,361	
創剤開発・研究賞表彰事業	920,176	920,176	0	
広報委員会事業	140,000	11,664	128,336	
医薬品の包装と情報分科会事業	0	135,406	△ 135,406	
教育分科会事業	0	5,184	△ 5,184	
学生シンポジウム事業	0	38,315	△ 38,315	
国際学会等協力事業	0	1,610,124	△ 1,610,124	
英語セミナー事業	0	112,967	△ 112,967	
機関紙出版事業	1,513,051	5,616,310	△ 4,103,259	
「薬剤学」編集委員会事業	0	90,367	△ 90,367	
投稿論文審査委員会事業	0	0	0	
出版委員会事業	57,551	0	57,551	
製剤技術伝承講習会事業	6,303,302	4,339,074	1,964,228	
製剤技師認定事業	902,000	852,998	49,002	
製剤・創剤セミナー事業	6,976,022	4,796,197	2,179,825	
FG統括委員会事業	2,711,003	1,966,473	744,530	
公開市民講演会事業	0	74,742	△ 74,742	
製剤種差検討会事業	0	15,552	△ 15,552	
制度改革事業	0	0	0	
年会事業	35,898,780	35,871,942	26,838	
共通	11,152,589	20,159,148	△ 9,006,559	
小計	66,874,474	78,083,000	△ 11,208,526	
法人会計	11,009,265	7,593,665	3,415,600	
合計	77,883,739	85,676,665	△ 7,792,926	

貸借対照表

2024年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	25,679,621	31,545,000	△ 5,865,379
未収金	416,958	17,912	399,046
前払金	158,884	157,610	1,274
前払費用	356,400	1,602,224	△ 1,245,824
仮払金	0	0	0
流動資産合計	26,611,863	33,322,746	△ 6,710,883
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
タケルアヤヒグチ記念基金	30,000,000	30,000,000	0
タケル&アヤ・ヒグチ記念表彰事業積立預金	3,475,292	4,132,800	△ 657,508
創剤開発・研究賞積立金	1,405,230	975,406	429,824
学術集会基金	7,900,000	7,900,000	0
特定資産合計	42,780,522	43,008,206	△ 227,684
(3) その他固定資産			
什器備品	1	1	0
敷金	271,000	271,000	0
その他固定資産合計	271,001	271,001	0
固定資産合計	63,051,523	63,279,207	△ 227,684
資産合計	89,663,386	96,601,953	△ 6,938,567
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,200,323	2,456,532	△ 256,209
前受金	0	60,000	△ 60,000
前受会費	17,108,150	17,521,150	△ 413,000
預り金	212,454	58,710	153,744
仮受金	0	0	0
未払消費税等	1,000,000	0	1,000,000
流動負債合計	20,520,927	20,096,392	424,535
負債合計	20,520,927	20,096,392	424,535
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	21,405,230	20,975,406	429,824
指定正味財産合計	21,405,230	20,975,406	429,824
(うち基本財産への充当額)	(20,000,000)	(20,000,000)	0
(うち特定財産への充当額)	(1,405,230)	(975,406)	429,824
2. 一般正味財産	47,737,229	55,530,155	△ 7,792,926
(うち特定財産への充当額)	(41,375,292)	(42,032,800)	△ 657,508
正味財産合計	69,142,459	76,505,561	△ 7,363,102
負債及び正味財産合計	89,663,386	96,601,953	△ 6,938,567

貸借対照表内訳表

2024年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科 目	公益目的事業	法人会計	合計
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	0	25,679,621	25,679,621
未収金	416,958	0	416,958
前払金	15,334	143,550	158,884
前払費用	0	356,400	356,400
仮払金	0	0	0
流動資産合計	432,292	26,179,571	26,611,863
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	0	20,000,000	20,000,000
基本財産合計	0	20,000,000	20,000,000
(2) 特定資産			
タケルアヤヒグチ基金	30,000,000	0	30,000,000
タケル&アヤ・ヒグチ記念表彰事業積立預金	3,475,292	0	3,475,292
創剤開発・研究賞基金	1,405,230	0	1,405,230
学術集会基金	7,900,000	0	7,900,000
特定資産合計	42,780,522	0	42,780,522
(3) その他固定資産			
什器備品		1	1
敷金		271,000	271,000
その他固定資産合計	0	271,001	271,001
固定資産合計	42,780,522	20,271,001	63,051,523
資産合計	43,212,814	46,450,572	89,663,386
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	558,135	1,642,188	2,200,323
前受金	0	0	0
前受会費	8,554,075	8,554,075	17,108,150
預り金	13,900	198,554	212,454
仮受金	0	0	0
未払消費税等	0	1,000,000	1,000,000
流動負債合計	9,126,110	11,394,817	20,520,927
負債合計	9,126,110	11,394,817	20,520,927
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	1,405,230	20,000,000	21,405,230
指定正味財産合計	1,405,230	20,000,000	21,405,230
2. 一般正味財産	32,681,474	15,055,755	47,737,229
正味財産合計	34,086,704	35,055,755	69,142,459
負債及び正味財産合計	43,212,814	46,450,572	89,663,386

正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	200	200	0
基本財産受取利息	200	200	0
特定資産運用益	319	318	1
特定資産受取利息	319	318	1
受取会費	22,018,000	21,909,000	109,000
正会員受取会費	11,162,000	10,953,000	209,000
学生会員受取会費	1,656,000	1,756,000	△ 100,000
賛助会員受取会費	9,200,000	9,200,000	0
事業収益	55,633,798	38,643,372	16,990,426
学術集会・委員会等事業収益	51,880,850	34,286,000	17,594,850
参加費	21,984,600	19,103,000	2,881,600
昼食代	51,100	0	51,100
意見交換会費	4,327,300	0	4,327,300
助成金・補助金	150,000	150,000	0
寄付金・協賛金	3,888,000	6,398,000	△ 2,510,000
セミナー協賛金	2,970,000	0	2,970,000
広告料	3,033,000	4,665,000	△ 1,632,000
出展料	15,476,850	3,970,000	11,506,850
学会誌等出版事業収益	1,630,772	1,423,406	207,366
購読料	454,321	461,796	△ 7,475
投稿料・別刷料	148,368	26,950	121,418
許諾料・使用料	878,083	784,660	93,423
指定正味財産からの振替	150,000	150,000	0
学会賞等表彰事業	1,220,176	1,613,966	△ 393,790
助成金・補助金	300,000	300,000	0
指定正味財産からの振替	920,176	1,313,966	△ 393,790
製剤技師認定事業	902,000	1,320,000	△ 418,000
受験料	594,000	820,000	△ 226,000
認定料	308,000	500,000	△ 192,000
雑収益	231,422	1,103,600	△ 872,178
受取利息	121	124	△ 3
雑収益	231,301	1,103,476	△ 872,175
経常収益計	77,883,739	61,656,490	16,227,249
(2) 経常費用			
事業費	78,083,000	51,703,419	26,379,581
給料手当	11,456,113	10,744,876	711,237
臨時雇賃金	1,705,750	390,000	1,315,750
法定福利費	1,567,561	1,292,352	275,209
人材派遣費	0	589,279	△ 589,279
福利厚生費	0	16,216	△ 16,216
会場費	20,707,317	2,141,127	18,566,190
旅費交通費	4,060,207	1,763,049	2,297,158
会議費	1,322,829	807,752	515,077
意見交換会費	5,773,466	0	5,773,466
賞状・賞牌・副賞費	2,198,899	3,075,375	△ 876,476
通信運搬費	3,458,914	2,956,285	502,629
ウェブサイト管理費	1,471,930	1,266,843	205,087
消耗品費	1,261,440	1,622,851	△ 361,411
印刷製本費	7,374,679	6,918,628	456,051
賃借料	1,740,954	1,741,812	△ 858
保管料	19,800	19,800	0
保険料	49,940	52,440	△ 2,500
諸謝金	3,037,194	3,059,742	△ 22,548
支払負担金	1,609,464	1,168,072	441,392
業務委託費	7,934,140	11,397,777	△ 3,463,637
雑費	1,332,403	679,143	653,260
管理費	7,593,665	6,253,114	1,340,551
給料手当	2,884,664	2,632,420	252,244
退職手当	309,000	0	309,000
法定福利費	394,714	316,617	78,097
福利厚生費	0	3,973	△ 3,973
旅費交通費	270,452	412,208	△ 141,756
会議費	10,102	8,310	1,792
通信運搬費	334,206	254,574	79,632
ウェブサイト管理費	272,582	291,919	△ 19,337
減価償却費	0	127,314	△ 127,314
研修費	69,300	25,300	44,000
消耗品費	52,931	58,491	△ 5,560
印刷製本費	14,958	18,951	△ 3,993
賃借料	438,374	426,732	11,642
租税公課	1,002,030	90,160	911,870
業務委託費	397,235	364,684	32,551
公認会計士報酬	880,000	990,000	△ 110,000
雑費	263,117	231,461	31,656
経常費用計	85,676,665	57,956,533	27,720,132
当期経常増減額	△ 7,792,926	3,699,957	△ 11,492,883
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 7,792,926	3,699,957	△ 11,492,883
一般正味財産期首残高	55,530,155	51,830,198	3,699,957
一般正味財産期末残高	47,737,229	55,530,155	△ 7,792,926
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1,500,000	1,500,000	0
一般正味財産への振替額	△ 1,070,176	△ 1,463,966	393,790
創刊開発・研究賞基金	△ 1,070,176	△ 1,463,966	393,790
当期指定正味財産増減額	429,824	36,034	393,790
指定正味財産期首残高	20,975,406	20,939,372	36,034
指定正味財産期末残高	21,405,230	20,975,406	429,824
III 正味財産期末残高	69,142,459	76,505,561	△ 7,363,102

正味財産増減計算書内訳表

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位: 円)

	公益目的事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	0	200	200
基本財産受取利息	0	200	200
特定資産運用益	319	0	319
特定資産受取利息	319	0	319
受取会費	11,009,000	11,009,000	22,018,000
正会員受取会費	5,581,000	5,581,000	11,162,000
学生会員受取会費	828,000	828,000	1,656,000
賛助会員受取会費	4,600,000	4,600,000	9,200,000
事業収益	55,633,798	0	55,633,798
学術集会・委員会等事業収益	51,880,850	0	51,880,850
参加費	21,984,600	0	21,984,600
昼食代	51,100	0	51,100
意見交換会費	4,327,300	0	4,327,300
助成金・補助金	150,000	0	150,000
寄付金・協賛金	3,888,000	0	3,888,000
セミナー協賛金	2,970,000	0	2,970,000
広告料	3,033,000	0	3,033,000
出展料	15,476,850	0	15,476,850
学会誌等出版事業収益	1,630,772	0	1,630,772
購読料	454,321	0	454,321
投稿料・別刷料	148,368	0	148,368
許諾料・使用料	878,083	0	878,083
指定正味財産からの振替	150,000	0	150,000
学会賞等表彰事業	1,220,176	0	1,220,176
助成金・補助金	300,000	0	300,000
指定正味財産からの振替	920,176	0	920,176
製剤技師認定事業	902,000	0	902,000
受験料	594,000	0	594,000
認定料	308,000	0	308,000
雑収益	231,357	65	231,422
受取利息	56	65	121
雑収益	231,301	0	231,301
経常収益計	66,874,474	11,009,265	77,883,739
(2) 経常費用			
事業費	78,083,000	0	78,083,000
給料手当	11,456,113	0	11,456,113
臨時雇賃金	1,705,750	0	1,705,750
法定福利費	1,567,561	0	1,567,561
会場費	20,707,317	0	20,707,317
旅費交通費	4,060,207	0	4,060,207
会議費	1,322,829	0	1,322,829
意見交換会費	5,773,466	0	5,773,466
賞状・賞牌・副賞費	2,198,899	0	2,198,899
通信運搬費	3,458,914	0	3,458,914
ウェブсайт管理費	1,471,930	0	1,471,930
消耗品費	1,261,440	0	1,261,440
印刷製本費	7,374,679	0	7,374,679
賃借料	1,740,954	0	1,740,954
保管料	19,800	0	19,800
保険料	49,940	0	49,940
諸謝金	3,037,194	0	3,037,194
支払負担金	1,609,464	0	1,609,464
業務委託費	7,934,140	0	7,934,140
雑費	1,332,403	0	1,332,403
管理費	0	7,593,665	7,593,665
給料手当	0	2,884,664	2,884,664
退職手当	0	309,000	309,000
法定福利費	0	394,714	394,714
旅費交通費	0	270,452	270,452
会議費	0	10,102	10,102
通信運搬費	0	334,206	334,206
ウェブсайт管理費	0	272,582	272,582
研修費	0	69,300	69,300
消耗品費	0	52,931	52,931
印刷製本費	0	14,958	14,958
賃借料	0	438,374	438,374
租税公課	0	1,002,030	1,002,030
業務委託費	0	397,235	397,235
公認会計士報酬	0	880,000	880,000
雑費	0	263,117	263,117
経常費用計	78,083,000	7,593,665	85,676,665
当期経常増減額	△ 11,208,526	3,415,600	△ 7,792,926
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	9,507,943	△ 9,507,943	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,700,583	△ 6,092,343	△ 7,792,926
一般正味財産期首残高	34,382,057	21,148,098	55,530,155
一般正味財産期末残高	32,681,474	15,055,755	47,737,229
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1,500,000	0	1,500,000
一般正味財産への振替額	△ 1,070,176	0	△ 1,070,176
創刊開発・研究賞基金	△ 1,070,176	0	△ 1,070,176
当期指定正味財産増減額	429,824	0	429,824
指定正味財産期首残高	975,406	20,000,000	20,975,406
指定正味財産期末残高	1,405,230	20,000,000	21,405,230
III 正味財産期末残高	34,086,704	35,055,755	69,142,459

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1)固定資産の減価償却
固定資産の減価償却は定額法によっている。
- (2)消費税等の会計処理
消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
ケルアヤヒグチ記念基金	30,000,000	0		30,000,000
ケル&アヤ・ヒグチ記念表彰事業積立預金	4,132,800		657,508	3,475,292
創剤開発・研究賞積立金	975,406	1,500,000	1,070,176	1,405,230
学術集会基金	7,900,000	0	0	7,900,000
小計	43,008,206	1,500,000	1,727,684	42,780,522
合計	63,008,206	1,500,000	1,727,684	62,780,522

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	20,000,000	0	(0)
小計	20,000,000	20,000,000	0	(0)
特定資産				
ケルアヤヒグチ記念基金	30,000,000	0	30,000,000	(0)
ケル&アヤ・ヒグチ記念表彰事業積立預金	3,475,292		3,475,292	(0)
創剤開発・研究賞積立金	1,405,230	1,405,230		(0)
学術集会基金	7,900,000	0	7,900,000	(0)
小計	42,780,522	1,405,230	41,375,292	(0)
合計	62,780,522	21,405,230	41,375,292	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	254,880	254,879	1
合計	254,880	254,879	1

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上
Award Grant 助成金	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	300,000	300,000	0	注)
スカラシップ・七つ星助成金(年会)	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	150,000	150,000	0	注)
合計		0	450,000	450,000	0	

※注)いずれも当該年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はない。

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
事業収益	
学会誌等出版事業収益	
創剤開発・研究賞積立金	150,000
学会賞等表彰事業	
創剤開発・研究賞積立金	920,176
合計	1,070,176

附属明細書

1. 基本財産および特定資産の明細

「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記3および4に記載しているため、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
なし	0	0	0	0	0

以上

財産目録
2024年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金預金			<u>25,679,621</u>
	現金	現金	事務局手許現金	116,180
	預金	普通預金		11,044,124
		三菱UFJ/江戸川橋	運転資金として	9,897,187
		三菱UFJ/江戸川橋(セミナー)	同上	0
		三住信/本店	同上	1,146,937
		郵便/会費	同上	13,578,537
		郵便/講習会	同上	932,705
		ゆうちょ総合	同上	8,075
	未収金	文献権利許諾使用料 他	公益目的事業の未収額	416,958
	前払金	事務所賃料	法人運営の前払分	158,884
	前払費用	会計ソフト利用料	法人運営の前払分	356,400
流動資産合計				26,611,863
(固定資産)				
基本財産				
	預金		公益目的事業に必要なその他の活動の用に供する財産であり、運用益を管理費に使用	<u>20,000,000</u>
		(普通)三住信/本店		20,000,000
特定資産				
	タケルアヤヒグチ記念基金		公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(ヒグチ記念各賞表彰事業)に使用	<u>42,780,522</u>
		(普通)三住信/本店		30,000,000
	タケル&アヤ・ヒグチ記念表彰事業積立預金		特定費用準備資金であり公益目的事業に使用	<u>3,475,292</u>
		郵便/会費	公益目的事業(創剤開発・研究賞表彰事業)に使用	3,475,292
	創剤開発・研究賞積立金		公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(年会事業)に使用	<u>1,405,230</u>
		(普通)三住信/本店		1,405,230
	学術集会基金		公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業(年会事業)に使用	<u>7,900,000</u>
		郵便/会費		7,900,000
その他固定資産				
	什器備品	パソコン	法人の管理運営に供している資産	1
	敷金	事務所借室学会センタービル	法人の管理運営に供している資産	271,000
固定資産合計				63,051,523
資産合計				89,663,386
(流動負債)				
	未払金	学会誌編集費, 事務委託費等	公益目的事業及び法人運営の未払分	2,200,323
	前受会費	次年度以降会費	公益目的事業及び法人運営の前受分	17,108,150
	預り金	源泉所得税	公益目的事業及び法人運営の未払分	212,454
	未払消費税等	未払消費税等	当年度納付額概算計上額	1,000,000
流動負債合計				20,520,927
負債合計				20,520,927
正味財産				69,142,459

確認書

2024年4月22日

公益社団法人日本薬剤学会
会長 尾関 哲也 殿

馬目公認会計士事務所

公認会計士・税理士 馬目 利昭



1. 確認の方法と概要

私は、公益社団法人日本薬剤学会の2023年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）の財務諸表等、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録について、会計帳簿、会計伝票、原資証憑等を閲覧し、役職員への質問等の手続を行い、決算内容を吟味し、様式、表示の確認を実施しました。

2. 意見

確認の結果、私は、公益社団法人日本薬剤学会の会計帳簿等と上記財務諸表等の数値は整合しており、財務諸表の様式、表示に関して、公益法人会計基準に準拠し、重要な点で問題はないものと判断しました。

以 上

監査報告書

公益社団法人 日本薬剤学会
会長 尾関 哲也 殿

2024年4月23日
公益社団法人 日本薬剤学会

監事 玉井 郁巳 

監事 山本 昌 

私たちは、2023年4月1日から2024年3月31日までの2023年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、財務諸表に対する注記及び附属明細書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書及び附則明細書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上